

200924032B

厚生労働科学研究費補助金
第3次対がん総合戦略研究事業

がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担
最小化に関する研究

平成19年度～21年度 総合研究報告書

研究代表者 濃 沼 信 夫

平成22(2010)年3月

厚生労働科学研究費補助金
第3次対がん総合戦略研究事業

がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担
最小化に関する研究

平成19年度～21年度 総合研究報告書

研究代表者 濃 沼 信 夫

平成22(2010)年3月

目 次

I	総合研究報告	
	がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担最小化に関する研究.....	1
	濃沼信夫	
II	研究成果の刊行に関する一覧表.....	25
III	研究成果の刊行物・別刷.....	51
	資料.....	211

I. 総合研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）
総合研究報告書

がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担最小化に関する研究

研究代表者 濃沼 信夫 東北大学大学院医学系研究科 教授

研究要旨

【目的】 がん対策基本法に掲げられた患者の意向の尊重、患者中心の医療を実現する上で経済的な悩みに適切に対応することが欠かせない。本研究は、がん患者の経済的負担の実態を把握し、患者の立場から負担を最小化する方策を検討する。

【方法】 大学病院、がんセンターなど全国の中核的ながん診療施設において、がん患者およびサバイバーを対象に経済的負担に係る自計調査を実施した。また、がん治療にかかる患者の費用について診療支援端末から費用情報の参照が可能となるナビゲーションシステムの開発を行った。

【結果】 現在まで、がん患者 15,905 名より回答を得た。がん患者の年間の自己負担額は平均 101.1 万円で、内訳は、直接費用として入院 52.5 万円（該当者 74.4%）、間接費用として健康食品・民間療法 21.8 万円（同 56.8%）、民間保険料 25.5 万円（同 85.0%）などである。償還・給付額は平均 62.4 万円で、内訳は、高額療養費 28.5 万円（該当者 52.7%）、民間保険給付金 101.1 万円（同 44.8%）などである。サバイバーの自己負担額は 29.9 万円、償還・給付額は 13.5 万円である。がん患者の経済的な負担感は、外来費用、痛み・不快感、家族への迷惑、世帯収入、貯蓄と関連がみられた。がん検診の一人あたり自己負担額は、住民検診 3,190 円、職場検診 4,016 円、人間ドック 20,981 円である。

【考察】 がん治療には直接費用のみならず間接費用の負担も少なくないこと、造血系腫瘍で分子標的治療を受ける患者の自己負担はがん患者全体に比べ約 1.5 倍重いこと、サバイバーは長年にわたり少なからぬ経済的負担が生じていること、がん検診では人間ドックで経済的負担が大きいことなどが明らかになった。がん治療の進歩による長期生存者の増加、技術進歩によるがん医療の高額化に対し、患者の経済的負担の軽減を図ることはますます重要となっている。入院適応、検査・投薬の適正化など臨床現場での対策、高額療養費の見直しなど現行制度の運用上の工夫に加え、すべての患者が経済的な理由によらず最適ながん医療が受けられるような体制の整備が必要となっている。

研究分担者

濃沼 信夫	東北大学大学院医学系研究科 教授	江崎 泰斗	九州がんセンター 消化管・腫瘍内科 医長
岡本 直幸	神奈川県立がんセンター がん予防情報研究部門 専門員	金子 昌弘	国立がんセンター中央病院 内視鏡部・呼吸器科 部長
下妻晃二郎	立命館大学 生命科学部 教授	鈴木 亘	学習院大学 経済学部 准教授

澤田 俊夫	群馬県立がんセンター 特別研究員	杉原 健一	東京医科歯科大学大学院 総合研究科・消化器外科 教授
青木 大輔	慶應義塾大学医学部 産婦人科学教室 教授	坪井 正博	神奈川県立がんセンター 呼吸器（外）科 医長
頼川 晋	東京慈恵会医科大学 泌尿器科学 教授	岩瀬 拓士	癌研有明病院 乳腺外科 医長
横須賀 収	千葉大学大学院医学研究院 消化器内科学・腫瘍内科 教授	瀧澤 憲	癌研有明病院 婦人科 部長
廣中 秀一	静岡県立静岡がんセンター 消化器内科 副医長	秋山 秀樹	都立駒込病院 血液内科 部長
菱川 良夫	兵庫県立粒子線医療センター 院長	鈴木 貴夫	仙台医療センター 診療部 医長
水島 洋	東京医科歯科大学 情報医科学センター 准教授	勝俣 範之	国立がんセンター中央病院 臨床試験・治療開発部 医長

A. 研究目的

がん対策基本法の基本理念には、診療技術の向上、がん医療の均てん化とともに患者の意向の尊重が掲げられており、患者の身体的、精神的な負担に加え、経済的な負担にも適切に対応することが要請されている。本研究では、患者負担の実態を正確に把握するとともに、患者の立場から負担を最小化する方策を検討する。そして、経済的負担が最小となるような医療を実践するための根拠に基づいた現実的な対策の提言と、医療費のナビゲーションシステムの開発と実用化を行う。

B. 研究方法

1. がん患者の経済的負担に関する調査

大学病院、がんセンターなど全国の中核的ながん診療施設の外来を受診するがん患者を対象に自計調査を実施した。患者には外来で調査概要を説明して調査票を手渡し、郵送にて回収した。平成21年12月～22年3月には、特に経済的負担が大きいと考えられる造血系腫瘍および分子標的治療を受ける20歳以上のがん患者を対象に同様の調査を実施した。

がん患者の経済的負担は、治療法、部位別、

がん発見の機会別などで記述統計による算出を行った。

2. がん患者の経済的負担感に関する調査

上記と同様の方法で、がん患者の経済的負担感（負担の重さの認識）を調査した。経済的負担感については階層的重回帰分析を行った。

3. サバイバーの経済的負担に関する調査

大学病院、がんセンターなど全国の中核的ながん診療施設において、長期にわたりフォローアップを受けている20歳以上のがん患者を対象に、質問紙による自計調査を実施した。調査票は、来院時の外来における手渡し、または担当医が把握する名簿からの郵送により配布し、郵送にて回収した。調査期間は平成21年9月～22年3月、分析は記述統計による算出を行った。

4. がん検診の経済的負担に関する調査

大学病院、がんセンターなどの中核的ながん診療施設を受診する20歳以上の外来がん患者を対象に、平成20年9月～21年2月に自計調査を実施した。がん検診の自己負担について検診種類などに記述統計による算出を行った。

5. がん治療の費用ナビゲーションシステム

がん治療にかかる患者の費用について、診療報酬および公開されているクリニカルパスを用いて治療費のデータベースを作成し、診療支援端末から費用情報の参照が可能となるナビゲーションシステムの開発を行った。また、胃、大腸、肺、乳房、子宮、前立腺について、システムモデルにより死亡までの治療費の推計を行った。

(倫理面への配慮)

調査は臨床研究や疫学研究に関する倫理指針を遵守するとともに、患者を対象にした調査については東北大学、および各施設の倫理委員会の承認を得て実施した。患者に調査の概要と、調査協力の有無により診療上の不利益を被らないことなどを説明するとともに、回収は無記名郵送とし、連結不可能匿名化によるプライバシーの保護を徹底した。

C. 研究結果

1. がん患者の経済的負担に関する調査

治療の患者 (n=6,604) の平均年齢は 63.3 歳、男性が 55.8% を占める。がんの部位は多い順に、胃 14.1%、前立腺 13.4%、乳房 12.8%、肺 10.0% などである。

高額な粒子線治療を受けた者を除く、がん患者 (n=6,425) の年間の自己負担額は平均 101.1 万円である。内訳は、直接費用として、入院 52.5 万円 (該当者 74.4%)、外来 18.1 万円、交通費 4.5 万円、間接費用として、健康食品・民間療法 21.8 万円 (同 56.8%)、民間保険料 25.5 万円 (同 85.0%)、その他の費用 13.6 万円である。一方、償還・給付額は平均 62.4 万円であり、内訳は、高額療養費 28.5 万円 (該当者 52.7%)、医療費還付 8.8 万円、民間保険給付金 101.1 万円 (同 44.8%) である。

治療法別にみると、手術を受けた患者 (n=232) の自己負担額は平均 91.3 万円、償還・給付額は 49.0 万円である。化学療法を受けた患者 (n=416) の自己負担額は平均 114.4 万円、償還・給付額は 58.3 万円である。

部位別にみると、肺がん患者 (n=429) の自己負担額は平均 102.0 万円、償還・給付額は 67.2 万円であり、胃がん患者 (n=706) は各 76.6 万円、50.1 万円、大腸がん患者 (n=433) は各 97.4 万円、70.6 万円である。乳がん患者 (n=641) は各 77.0 万円、48.2 万円、子宮がん患者 (n=454) は各 90.0 万円、73.3 万円、前立腺がん患者 (n=769) は各 75.3 万円、26.1 万円である。また、造血系腫瘍の患者 (n=399) は各 154.1 万円、112.3 万円である。

粒子線治療を受けた患者 (n=388) の自己負担額は平均 420.4 万円であり、内訳は、先進医療 288.3 万円、入院 42.2 万円、外来 18.0 万円、健康食品・民間療法 28.0 万円、民間保険料 31.8 万円などである。償還・給付額は平均 115.9 万円で、内訳は、高額療養費 28.3 万円、民間保険給付金 175.3 万円などである。

2. がん患者の経済的負担感に関する調査

患者 (n=1,747) の平均年齢は 63.7 歳、男性が 53.8% を占め、診断を受けた時期は回答時の 3.0 年前、現在治療中は 44.7% であり、がんの部位は乳房 15.8%、前立腺 14.4%、肺 9.7% などである。

経済的負担感について、診療や治療に要した費用の負担感が「非常に重い」とする患者は 2.5% を占める。階層的重回帰分析から、経済的負担感は、外来費用、痛み/不快感、家族への迷惑、世帯収入、貯蓄と関連することが示唆された。

がん発見までの受診別に経済負担をみると、検診で発見された場合 (n=264) の自己負担額は平均 108.0 万円、償還・給付額は 54.5 万円である。症状があつて受診した場合 (n=809) は各 120.5 万円、70.0 万円である。

3. サバイバーの経済的負担に関する調査

サバイバー (n=3,388) の平均年齢は 64.3 歳、診断を受けた時期は回答時の 7.1 年前、男性が 41.6% を占める。再発有りは 9.6%、これまで受けた治療内容は手術 90.5%、化学療法 23.6%、放射線療法 19.5% などである。がんの部位は、

乳房 27.2%、大腸 20.5%、前立腺 11.5%、子宮 10.2%、胃 9.5%などである。

年間の自己負担額は平均 29.9 万円で、内訳は、入院 27.5 万円（該当者 44.2%）、健康食品・民間療法 11.6 万円（同 6.6%）、民間保険料 15.6 万円（同 54.5%）などである。償還・給付額は 13.5 万円で、内訳は、高額療養費 15.2 万円（該当者 13.1%）、民間保険給付金 73.4 万円（同 14.9%）などである。

がんに関する困り事として多いのは、治療・心身の面では「再発・転移」42.1%、経済的な面では、「医療費（保険診療）」20.9%、「貯蓄の目減り」15.6%、社会的な面では、「仕事」10.8%、「定期的受診のわずらわしさ」10.6%、などである。

がん医療の経済的負担に関する要望は、「がん医療の経済負担についての正確な情報がほしい」35.8%、「がん医療の自己負担割合を他の病気より軽くしてほしい」35.6%、「がんにかかっても民間保険に加入できるようにしてほしい」35.0%、「自費診療や補装具費用を医療保険でカバーしてほしい」18.7%、「がん医療費は無料にしてほしい」16.2%などである。

4. がん検診の経済的負担に関する調査

回答したがん患者（n=2,271）の平均年齢は 61.1 歳、男性が 44.4%を占める。がん検診でがんが発見された者は 32.8%、がんの部位は乳房 18.5%、大腸 11.5%、胃 10.9%、子宮 10.3%、前立腺 9.5%などである。

一人あたり年間の検診費用は、住民検診が平均 3,190 円で、部位別にみると、胃 2,418 円、大腸 2,243 円、肺 1,742 円、乳房 2,405 円、子宮頸部 1,994 円、子宮体部 2,699 円、前立腺 2,310 円などである。職場検診は 4,016 円で、部位別では、胃 3,593 円、大腸 3,765 円、肺 1,950 円、乳房 3,465 円、子宮頸部 3,010 円、子宮体部 5,250 円、前立腺 3,333 円である。人間ドックは 20,981 円で、部位別では、胃 13,878 円、大腸 11,553 円、肺 8,961 円、乳房 9,851 円、子宮頸部 6,770 円、子宮体部 3,869 円、前立腺 8,406 円である。

5. がん治療の費用ナビゲーションシステム

主要な 6 種のがん（胃、大腸、肺、乳房、子宮、前立腺）について、患者ごとのがん医療費をパソコン端末の画面に簡便、迅速に出力する医療費ナビゲーションシステムを開発した。WEB ブラウザ上で性別、年齢、病期、治療法、出来高払い・DPC の別、室料差額等を選択入力することで、平均的な医療費（今回および生涯）がパソコン端末の画面上に表示される。

D. 考察

がん治療には、医療施設の窓口を支払う直接費用の他、健康食品・民間療法、かつら代、民間保険料などの間接費用の負担も少なくない。がん患者の年間の自己負担額は、間接費用の 40 万円強を含め平均 100 万円に上り、少なからぬ負担になっていると考えられる。

粒子線治療や分子標的治療を受けるがん患者では特に重い経済的負担が生じている。長足の技術進歩は患者の福音につながる一方で、患者の経済的負担は増加しており、特に高額医療における患者負担を軽減するための制度構築が喫緊の課題と考えられる。

また、積極的な治療を終了したがん患者、サバイバーは、長期にわたり少なからぬ経済的負担が生じている。一部のサバイバーでは、間接費用の継続的な支出があり、収入の減少や貯蓄の目減りが生じている。償還・給付を受けた割合は、医療費還付、高額療養費、民間保険給付金とも各 1 割前後で、一部のサバイバーに限られている。

がん患者の経済的負担感に関する調査結果から、経済的負担感は、がん治療にかかる費用の多寡によらず、世帯収入や貯蓄額と関連することが明らかになった。新たな治療法、新薬、医療機器の登場によって患者の経済的負担は重くなりつつあり、特に、経済的な備えが十分でない世帯に対する負担軽減は急務といえる。

がん検診の観点からがん患者の経済的負担についてみると、検診で発見された場合は、症状があつて受診した場合に比べて、がん患者の自己負担額はやや少なかった。負担感については、検診でがんが発見された者は、住民検診・職場検診・人間ドックのいずれにおいても安いとの回答が多

く、特に住民検診ではその傾向が強い。一方、高いとの回答は、がんの発見契機によらず、人間ドックの費用が高いとしており 10,000 円を超えると負担感が増すことが窺える。部位別集計では、検診でがん発見された者は一様に安いと回答しているが、高いとする者はがん発見の契機で一定の傾向は見られなかった。

受診率の向上に対するがん患者の意見は、体験談として重要な意味を持つ。マスコミを通じた広報や対象者への通知を徹底すべき、検診による早期発見治療のメリットを啓発すべきとする意見が目立つ。また、検診を受診する機会（土日）の拡大の提案や一回で必要な部位の検診が済む体制の整備を望む意見が少なくない。自治体ではなく国家レベルでその財政措置を講じるべき、検診を受診した個人が経済的なメリットを受けられる仕組みを検討すべきとの意見もある。

がん医療費のナビゲーションシステムは、パソコン画面に属性、部位、病期、治療法、抗がん剤、支払い方式（DPC、出来高）、室料差額などを入力すると、標準的な治療における平均的な費用が瞬時に表示されるもので、医師などの医療従事者が患者にがん医療の経済面についての説明を支援するツールとして、患者がおおよその負担額を把握するよすがとして有用と考えられる。

E. 結論

がん対策基本法に謳われた、患者が等しく適切ながん医療を受けるには、患者の経済的な悩みにも適切に対応することが欠かせない。本研究は、患者の経済的負担の実態を正確に把握し、患者の立場から負担を最小化する方策を根拠に基づいて検討するもので、がん検診の受診率改善に向けた政策の立案、経済面を含むインフォームド・コンセントの確保などの基礎資料となる。また、医療経済面の検討から今後の患者数増加と技術進歩に見合うがんの医療資源を確保する社会的合意を促すことに寄与する。

がん治療の進歩による長期生存者の増加、技術進歩によるがん医療の高額化に対し、患者の経済的負

担の軽減を図ることはますます重要となっている。入院適応、検査・投薬の適正化など臨床現場での対策、高額療養費の見直しなど現行制度の運用上の工夫に加え、すべての患者が経済的な理由によらず最適ながん医療が受けられるような体制の整備が必要となっている。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

2009 年度

- 1) 濃沼信夫: 大腸癌治療の費用効果. 大腸癌診療で知っておきたい医療経済. 大腸疾患 NOW2010 (武藤徹一郎 監修). 日本メディカルセンター. 東京. 81-87, 2010.
- 2) 濃沼信夫: がんの医療経済. 新しい診断と治療の ABC「胃癌(改訂 2 版)」最新医学社. 大阪. 236-244, 2010.
- 3) 濃沼信夫: 介護予防の評価. 医療経済学・政策学の視点から. 公衆衛生. 73(4):286-289, 2009.
- 4) 濃沼信夫: がん検診の現状と問題点. 日本医師会雑誌. 138 特別号(1):s43-s46, 2009.
- 5) 濃沼信夫: 胃癌撲滅戦略による経済効果. Helicobacter Research. 13(5):380-384, 2009.
- 6) 濃沼信夫: 分子標的薬の医療経済. 日癌治. 44(2):232, 2009.
- 7) 濃沼信夫: 胃癌の医療経済. The Forefront. 5(2):33-36, 2009.
- 8) Okamoto N, Miyagi Y, Chiba A, Akaike M, Shiozawa M, Imaizumi A, Yamamoto H, Ando T, Ymakado M and Tochikubo O: Diagnostic modeling with differences in plasma amino acid profiles between non-cachectic colorectal/breast cancer patients and healthy individuals. Int. J. Medicine and Medical Sciences. 1:1-8, 2009.
- 9) Sakuma Y, Okamoto N, Saito H, Yamada K, Yokose T, Kiyoshima M, Asato Y, Amemiya R,

- Saitoh H, Matsukuma S, Yoshihara M, Nakamura Y, Oshita F, Ito H, 17. Nakayama H, Kameda Y, Tsuchiya E, Miyagi Y: A logistic regression predictive model and the outcome of patients with resected lung adenocarcinoma of 2cm or less in size. *Lung Cancer*. 65(1):85-90, 2009.
- 10) Numasaki R, Miyagi E, Konnai K, Ikrda H, Yamamoto A, Onose R, Kato H, Okamoto N, Hirahara F and Nakayama H: Analysis of stage IVB endomeyrial carcinoma patients with distant metastasis; a review of prognoses in 55 patients. *Int J Clin Oncol*. 14:344-350, 2009.
- 11) Miyakawa K, Tarao K, Ohshige K, Morinaga S, Ohkawa S, Okamoto N, Shibuya A, Adachi S, Miura Y, Fujiyama S, Miyase S, Tomita K: High serum alanine amino-transferase levels for the first three successive years can predict very high incidence of hepatocellular carcinoma in patients with Child Stage A HCV-associated liver cirrhosis. *Scandinavian J Gastroenterology*. 44:1340-1348, 2009.
- 12) Shibata Y, Ariyama H, Baba E, Takii Y, Esaki T, Mitsugi K, Tsuchiya T, Kusaba H, Akashi K, Nakano S: Oxaliplatin-Induced allergic reaction in patients with colorectal cancer in Japan. *Int J Clin Oncol*. 14: 397-401, 2009.
- 13) 江崎泰斗、高山良子、樋口由起子、大島 彰 : がん専門病院(がん診療連携拠点病院)緩和ケアチームの現状と地域連携. *癌の臨床*. 55(6):433-439, 2009.
- 14) Baba E, Fujishima H, Kusaba H, Esaki T, Ariyama H, Kato K, Tanaka R, Mitsugi K, Shibata Y, Harada M, Nakano: Phase I Study of Sequential Administration of S-1 and Cisplatin for Metastatic Gastric Cancer. *ANTICANCER RESEARCH*. 29:1727-1732, 2009.
- 15) 江崎泰斗、在田修二、藤本千夏 : エビデンスに基づく補助療法 - 術後補助化学療法. *臨床と研究*. 86:44-46, 2009.
- 16) 政 幸一郎、藤本 千夏、有山 寛、江崎 泰斗、村川 昌弘、庄司 哲也、馬場 英司、平沼 成一 : Methotrexate/5-Fluorouracil 交代療法中にゾレドロン酸で著明な低カルシウム血症を起こした胃癌骨髄癌腫症の1例. *癌と化学療法*. 36:489-492, 2009.
- 17) Seki N, Eguchi K, Kaneko M, Ohmatsu H, Kakinuma R, Matsui E, Kusumoto M, et al: The adenocarcinoma-specific stage shift in the Anti-lung Cancer Association project; Significance of repeated screening for lung cancer for more than 5 years with low-dose helical computed tomography in a high-risk cohort. *Lung cancer*. 67, 2010.
- 18) 金子昌弘 : 肺がん死亡減少に気管支鏡の果たす役割. *呼吸と循環*. 57(11):1097, 2009.
- 19) 金子昌弘 : がん検診の役割と意義. *治療*. 91(10):2362-2367, 2009.
- 20) 松井英介、金子昌弘、他 : 低線量 CT による肺がん検診の有効性「東京から肺がんをなくす会」の成績から. *CT 検診*. 16(2):128-134, 2009.
- 21) 古田 希、佐々木 裕、小出晴久、三木 淳、木村高弘、颯川 晋 : 腹腔鏡下副腎摘除術と開放性手術の手術成績についての比較検討. *臨床泌尿器科*. 63(2):157-163, 2009.
- 22) 古田 希、小出晴久、佐々木 裕、三木 淳、木村高弘、颯川 晋 : 副腎褐色細胞腫に対する腹腔鏡下副腎摘除術の検討. *泌尿紀要* 2009. 55(5):245-8, 2009.
- 23) Kuruma H, Kamata Y, Takahashi H, Igarashi K, Kimura T, Miki K, Miki J, Sasaki H, Hayashi N, Egawa S: Staphy-lococcal Nuclease Domain-Containing Protein 1 as a Potential Tissue Marker for Prostate Cancer. *American Journal of Pathology*. 174(6): in press.
- 24) 車 英俊、鎌田裕子、鷹橋浩幸、五十嵐浩二、木村高弘、下村達也、三木健太、三木 淳、

- 佐々木 裕、林 典宏、颯川 晋：新規前立腺癌マーカーSND1の抗体は、免疫染色において臨床的意義のある癌を染め分けることができるか。泌尿器外科。22(8):947-950, 2009.
- 25) Shimomura T, Ohtsuka N, Yamada H, Miki J, Hayashi N, Kimura T, Kuruma H, Egawa S: Patterns of failure and influence of potential prognostic factors after surgery in transitional cell carcinoma of the upper urinary tract. *Int J Clin Oncology*. 14(3):213-218, 2009.
- 26) 下村達也、佐々木 裕、三木 淳、山田裕紀、木村高弘、古田 希、颯川 晋：腹腔鏡下根治的膀胱全除術の初期経験。Jpn J Endourology ESWL. 22(1):71-76, 2009.
- 27) 佐々木 裕、颯川 晋：腹腔鏡下神経温存前立腺全摘除術－Intrafascial nerve-sparing－. Jpn J Endourol ESWL. 22(2):179-183, 2009.
- 28) 小池祐介、颯川 晋：がん update 前立腺がん。日本医師会雑誌。138 (特別号1) : S243-S244, 2009.
- 29) 木村高弘、清田 浩、三木 淳、鎌田裕子、下村達也、車 英俊、佐々木 裕、中田大介、正木恒男、日下雅美、颯川 晋：日本人ホルモン抵抗性前立腺癌患者皮膚転移より樹立した新規前立腺癌細胞株。日本泌尿器科学会雑誌。100(2):146, 2009.
- 30) 三木 淳、佐々木 裕、木村高弘、稲葉裕之、山口泰広、畠 憲一、三木健太、颯川 晋：当施設における前立腺癌リスク分類の動向。日本泌尿器科学会雑誌。100(2):194-216, 2009.
- 31) 佐々木 裕、三木 淳、木村高弘、畠 憲一、三木健太、颯川 晋：腹腔鏡下前立腺全摘除術における早期尿禁制回復の検討。日本泌尿器科学会雑誌。100(2):135-157, 2009.
- 32) 山本順啓、畠 憲一、山口泰広、木戸雅人、中野雅貴、鷹橋浩幸、佐々木 裕、三木 淳、木村高弘、古田 昭、三木健太、古田 希、颯川 晋：生検にて1針のみより癌を認めた症例における全摘標本の病理学的検討。日本泌尿器科学会雑誌。100(2):187-209, 2009.
- 33) 鎌田裕子、車 英俊、鷹橋浩幸、木村高弘、下村達也、佐々木 裕、松本和将、西森孝典、朝長 毅、野村丈夫、山田順子、颯川 晋：Periplakin、Envoplakin の上部尿路癌、尿細胞診における発現の検討。日本泌尿器科学会雑誌。100(2):116-138, 2009.
- 34) 木戸雅人、三木健太、青木 学、颯川 晋：I-125 密封小線源永久挿入治療 202 例の成績。日本泌尿器科学会雑誌。100(2):242-264, 2009.
- 35) 石井 元、佐々木 裕、三木 淳、坂東重浩、畠 憲一、木村高弘、三木健太、颯川 晋：ハイリスク前立腺癌に対する前立腺摘除術における病理組織学的検討。日本泌尿器科学会雑誌。100(2):391-413, 2009.
- 36) 都筑俊介、三木 淳、佐々木 裕、下村達也、古田 希、池本 庸、颯川 晋：膀胱癌に対する根治的膀胱全摘術における臨床的検討。日本泌尿器科学会雑誌。100(2):298-320, 2009.
- 37) Yamada H, Penney KL, Egawa S, et al: Replication of prostate cancer risk loci in Japanese case-control association study. *J Natl Cancer Inst*. 101(19):1330-1336, 2009.
- 38) Kimura T, Kiyota H, Nakata D, Masaki T, Kusaka M, Egawa S: A novel androgen-dependent prostate cancer xenograft model derived from skin metastasis of a Japanese patient. *Prostate*. 69(15):1660-1667, 2009.
- 39) Ito K, Arai M, Imazeki F, Yonemitsu Y, Bekku D, Kanda T, Yokosuka O, et al: Risk of Hepatocellular Carcinoma in Patients with Chronic Hepatitis B Virus Infection. *Scandinavian Journal of Gastroenterology*. 45:243-249, 2009.
- 40) Nakamoto S, Imazeki F, Fukai K, Fujiwara K, Arai M, Kanda T, Yonemitsu Y, Yokosuka O: Association between mutations in the

- core region of hepatitis C virus genotype 1 and hepatocellular carcinoma development. *J Hepatol.* 52:72-78, 2009.
- 41) Maruyama H, Takahashi M, Ishibashi H, Okabe S, Yoshikawa M, Yokosuka O: Changes in tumor vascularity precede microbubble contrast accumulation deficit in the process of dedifferentiation of hepatocellular carcinoma. *Eur J Radiol.* 2009, in press.
- 42) Ohno I, Eibl G, Odinkova I, Edderkaoui M, Damoiseaux RD, Yazbec M, Abrol R, Goddard WA 3rd, Yokosuka O, Pandol SJ, Gukovskaya AS: Rottlerin stimulates apoptosis in pancreatic cancer cells through interactions with proteins of the Bcl-2 family. *Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol.* 298(1):G63-73, 2009.
- 43) Fujimoto T, Tomizawa M, Yokosuka O: siRNA of frizzled-9 suppresses proliferation and motility of hepatoma cells. *Int J Oncol.* 35(4):861-6, 2009.
- 44) Yan J, Yamaguchi T, Odaka T, Suzuki T, Ohyama N, Hara T, Sudo K, Nakamura K, Denda T, Takiguchi N, Yokosuka O, Nomura F: Stool antigen test is a reliable method to detect *Helicobacter pylori* in the gastric remnant after distal gastrectomy for gastric cancer. *J Clin Gastroenterol.* 44(1):73-4, 2010.
- 45) Nakamoto S, Sakai Y, Kasanuki J, Kondo F, Ooka Y, Kato K, Arai M, Suzuki T, Matsumura T, Bekku D, Ito K, Tanaka T, Yokosuka O: Indications for the use of endoscopic mucosal resection for early gastric cancer in Japan: a comparative study with endoscopic submucosal dissection. *Endoscopy.* 41(9):746-50, 2009.
- 46) Tsuyuguchi T, Sakai Y, Sugiyama H, Miyakawa K, Ishihara T, Ohtsuka M, Miyazaki M, Yokosuka O: Endoscopic diagnosis of intraductal papillary mucinous neoplasm of the bile duct. *J Hepatobiliary Pancreat Surg.* 2009, in press.
- 47) Chiba T, Kamiya A, Yokosuka O, Iwama A: Cancer stem cells in hepatocellular carcinoma: Recent progress and perspective. *Cancer Lett.* 286(2):145-53, 2009.
- 48) Yonemitsu Y, Imazeki F, Chiba T, Fukai K, Nagai Y, Miyagi S, Arai M, Aoki R, Miyazaki M, Nakatani Y, Iwama A, Yokosuka O: Distinct expression of polycomb group proteins EZH2 and BMI1 in hepatocellular carcinoma. *Hum Pathol.* 40(9):1304-11, 2009.
- 49) 杉原健一:インフォームドコンセントのための図説シリーズ 抗悪性腫瘍薬 大腸癌. 医薬ジャーナル社. 大阪. 総ページ数 107, 2009.
- 50) 杉原健一:ガイドラインサポートハンドブック 大腸癌. 医薬ジャーナル社. 大阪. 総ページ数 246, 2010.
- 51) 安野正道, 杉原健一:骨盤内臓全摘術. 手術. 63(2):141-147, 2009.
- 52) 小林宏寿, 榎本雅之, 樋口哲郎, 安野正道, 植竹宏之, 飯田 聡, 石川敏昭, 石黒めぐみ, 杉原健一:下部直腸癌:大腸癌治療ガイドラインの解説. 外科. 71(2):115-119, 2009.
- 53) 石黒めぐみ, 杉原健一:大腸癌 5年生存率7割の“治りやすい癌”. *Medical ASAHI.* 4:28-30, 2009.
- 54) 樋口哲郎, 杉原健一:下部消化管癌 消化器癌:診断・治療のすべて. *消化器外科.* 32(5):546-551, 2009.
- 55) 青柳治彦, 樋口哲郎, 杉原健一:結腸がん. *消化器外科ナーシング.* 春季増刊:85-94, 2009.
- 56) 樋口哲郎, 小林宏寿, 石黒めぐみ, 杉原健一:直腸癌. *消化器外科.* 32(6):1067-1075, 2009.
- 57) 石川敏昭, 植竹宏之, 杉原健一:アジュバント/ネオアジュバント化学療法の進歩と未

- 来. モダンフィジシャン. 29:954-958, 2009.
- 58) 小林宏寿、榎本雅之、樋口哲郎、安野正道、植竹宏之、飯田聡、石川敏昭、石黒めぐみ、杉原健一、他:低位前方切除術. 消化器外科. 32(8):1307-1312, 2009.
- 59) 植竹宏之、石川敏昭、杉原健一:大腸がん術後補助療法における欧米と日本の相違点. 臨床腫瘍プラクティス. 5(3):305-307, 2009.
- 60) 小林宏寿、杉原健一:大腸癌取扱い規約と大腸癌治療ガイドライン. 医学のあゆみ. 230(10):959-964, 2009.
- 61) 植竹宏之、石川敏昭、杉原健一:大腸がん化学療法におけるベバシズマブの位置付けとその効果. Mebio. 26(10):66-71, 2009.
- 62) 石黒めぐみ、石川敏昭、植竹宏之、杉原健一:大腸がんの術後補助化学療法、今後の展望. Mebio. 26(10):116-123, 2009.
- 63) 石黒めぐみ、小林宏寿、杉原健一:術後サーベイランスは予後の改善に寄与するか. 外科治療. 101(4):479-485, 2009.
- 64) 小林宏寿、杉原健一:大腸癌取扱規約と大腸癌治療ガイドライン. 医学のあゆみ. 230(10):959-964, 2009.
- 65) 小林宏寿、榎本雅之、樋口哲郎、安野正道、植竹宏之、飯田聡、石川敏昭、石黒めぐみ、杉原健一:低位前方切除術の器械による結腸一直腸吻合. 臨床外科. 64(11):252-255, 2009.
- 66) 植竹宏之、杉原健一:病期(ステージ)と大腸癌術後補助化学療法の適応. Pharma Medica. 27(11):11-18, 2009.
- 67) 安野正道、杉原健一:大腸癌肝転移に対する集学的治療戦略における肝切除前・切除後の化学療法について. INTESTINE. 13(6):635-644, 2009.
- 68) 杉原健一: VEGF 抗体ベバシズマブ. Bios. 14-IV:7-8, 2009.
- 69) 石黒めぐみ、安野正道、榎本雅之、樋口哲郎、小林宏寿、杉原健一:肛門温存の適応—適応を絞る立場から. 臨床消化器内科. 25(1):49-54, 2009.
- 70) 石黒めぐみ、杉原健一:レジデントノート. 大腸癌に罹ったあと、またがんになる可能性はありますか?. 大腸癌 FRONTIER. 2(4):88-90, 2009.
- 71) 斎藤祐輔、岩下明德、工藤進英、小林広幸、清水誠治、杉原健一、武藤徹一郎、他:大腸癌研究会「微笑大腸病変の取扱」プロジェクト研究班結果報告. 胃と腸. 44(6):1047-1051, 2009.
- 72) 岡志郎、田中信治、金尾浩幸、五十嵐正広、小林清典、斎藤豊、杉原健一、武藤徹一郎、他:大腸 SM 癌内視鏡治療の中期予後. 胃と腸. 44(8):1286-1294, 2009.
- 73) 小林宏寿、榎本雅之、樋口哲郎、安野正道、植竹宏之、飯田聡、石川敏昭、石黒めぐみ、杉原健一:広範な腹壁膿瘍を呈した盲腸癌の1例. 日本消化器外科学会雑誌. 42(10):1603-1608, 2009.
- 74) 小林宏寿、杉原健一:側方リンパ節転移例の検討からみた側方郭清の適応:大腸癌研究会・プロジェクト研究結果より. 大腸癌 FRONTIER. 2(3):213-216, 2009.
- 75) 河合宏美、植竹宏之、小林宏寿、榎本雅之、樋口哲郎、安野正道、飯田聡、石川敏昭、杉原健一:直腸癌術後肺再発に対し Cetuximab が著効した1例. 癌と化学療法. 36(12):2152-2154, 2009.
- 76) 樋口哲郎、石川敏昭、塚本俊輔、藤森喜毅、小田剛史、岡崎 聡、石黒めぐみ、杉原健一、他:多発肝転移による高度肝機能障害を合併した進行直腸癌の1例. 癌と化学療法. 36(12):2181-2186, 2009.
- 77) Fujimori T, Fujii S, Saito N, Sugihara K: Pathologic diagnosis of early colorectal cancer and its clinical implication. Digestion. 79(suppl.1):40-51, 2009.
- 78) Kobayashi H, Sugihara K, Uetake H, Higuchi T, Yasuno Y, Enomoto M, Iida S, Lenz HJ, Danenberg K, Danenberg PV: Messenger RNA expression of COX-2 and angiogenetic factors in primary colorectal cancer and

- corresponding liver metastasis. *Int J Oncol.* 34(4):1147-1153, 2009.
- 79) Motoyama K, Inoue H, Takatsuno Y, Tanaka F, Mimori K, Uetake H, Sugihara K, Mori M: Over- and under-expressed microRNAs in human colorectal cancer. *Int J Oncol.* 34(4):1069-1075, 2009.
- 80) Kinugasa Y, Sugihara K: Why does levator ani nerve damage occur during rectal surgery? *J Clin Oncol.* 27(6):999-1000, 2009.
- 81) Kobayashi H, Mochizuki H, Kato T, Mori T, Kameoka S, Shirouzu K, Sugihara K: Outcome of Surgery alone for lower rectal cancer with and without pelvic sidewall dissection. *Dis Colon Rectum.* 52(4):567-576, 2009.
- 82) Kobayashi H, Mochizuki H, Morita T, Kotake K, Teramoto T, Kameoka S, Sugihara K, et al: Timing of relapse and outcome after curative resection for colorectal cancer a Japanese multicenter study. *Dig Surg.* 26(3):249-255, 2009.
- 83) Akasu T, Sugihara K, Moriya Y: Male urinary and sexual functions after mesorectal excision alone or in combination with extended lateral pelvic lymph node dissection for rectal cancer. *Ann Surg Oncol.* 16(10):2779-2786, 2009.
- 84) Ogiya A, Horii R, Osako T, Ito Y, Iwase T, Eishi Y, Akiyama F: Apocrine metaplasia of breast cancer: clinicopathological features and predicting response. *Breast Cancer.* 30, 2009.
- 85) 岩瀬拓士: V 乳腺の手術 乳房切除術 (Bt+SNB). 手術. 金原出版. 東京. 875-880, 2009.
- 86) 森園英智、岩瀬拓士: 非浸潤性乳癌の治療 非浸潤性乳癌の特性と局所療法. 戸井雅和. みんなに役立つ乳癌の基礎と臨床. 医薬ジャーナル社. 大阪. 479-489. 2009.
- 87) Tamaki Y, Akiyama F, Iwase T, Kaneko T, Tsuda H, Sato K, Ueda S, Mano M, Masuda N, Takeda M, Tsujimoto M: Molecular Detection of Lymph Node Metastases in Breast Cancer Patients: Results of a Multicenter Trial Using the One-Step Nucleic Acid Amplification Assay. *Clinical Cancer Research.* 15(8):2879-2884, 2009.
- 88) Osako T, Horii R, Ogiya A, Iijima K, Iwase T, Akiyama F: Histogenesis of metaplastic breast carcinoma and axillary nodal metastases. *Pathology International.* 59(2):116-120, 2009.
- 89) Ueda N, Tada K, Miyata S, Koizumi M, Kuroda Y, Iwase T: Identification of sentinel lymph node location based on body surface landmarks in early breast cancer patients. *Breast Cancer.* 16(3):219-222, 2009.
- 90) Tanaka K, Akiyama F, Nishikawa N, Kimura K, Gomi N, Oda K, Iwase T: Invasive carcinoma of the breast accompanied by coarse calcification. *American Journal of Roentgenology.* 193:W70-W71, 2009.
- 91) 堀井理絵、五味直哉、岩瀬拓士、秋山太: 非触知石灰化病変の病理診断. *臨床放射線.* 54(11):1299-1306, 2009.
- 92) Abe M, Miyata S, Nishimura S, Iijima K, Makita M, Akiyama F, Iwase T: Malignant transformation of breast fibroadenoma to malignant phyllodes tumor: long-term outcome of 36 malignant phyllodes tumors. *Breast Cancer.* 26, 2009.
- 93) 岩瀬拓士: 乳癌の外科治療と教育. 乳癌の臨床. 24:23-32, 2009.
- 94) Shimada Y, Tsuboi M, Saji H, Miyajima K, Usuda J, Uchida O, et al: The Prognostic Impact of Main Bronchial Lymph Node Involvement in Non-Small Cell Lung Carcinoma: Suggestions for a Modification of the Staging System. *Ann Thorac Surg.* 88:1583-1588, 2009.
- 95) Teramukai S, Kitano T, Kishida Y, Kawahara

- M, Kubota K, Komuta K, Tuboi M, et al: Pretreatment neutrophil count as an independent prognostic factor in advanced non-small-cell lung cancer: An analysis of Japan Multinational Trial Organisation LC00-03. *EJC*. 45:1950-1958, 2009.
- 96) 滝沢 憲: 卵巣がんの抗がん剤以外の治療を望む方へ受け皿となる免疫細胞治療. 武藤徹一郎. 免疫細胞治療. 幻冬社. 東京. 190-199, 2009.
- 97) Takeshima N, Utsugi K, Hasumi K, Takizawa K: Prospective adjuvant chemotherapy for node-positive cervical adenocarcinoma. *Int J Gynecol Cancer*. 19(2):277-280, 2009.
- 98) Umayahara K, Takeshima N, Nose T, Fuziwara F, Sugiyama Y, Utsugi K, Yamashita T, Takizawa K: Phase I study of concurrent chemoradiotherapy with weekly cisplatin and paclitaxel chemotherapy for locally advanced cervical carcinoma in Japanese women. *Int J Gynecol Cancer*. 19(4):723-727, 2009.
- 99) Yamamoto K, Kokawa K, Umesaki N, Nishimura R, Hasegawa K, Konishi I, Saji F, Nishida M, Noguchi H, Takizawa K: Phase I study of combination chemotherapy with irinotecan hydrochloride and nedaplatin for cervical squamous cell carcinoma; Japanese Gynecologic Oncology Group study. *Oncology Report*. 21(4):1005-1009, 2009.
- 100) 竹島信宏、滝沢 憲: 婦人科がん治療ガイドライン策定の背景と今後の動向 I. 子宮頸癌の初回治療. *癌と化学療法*. 36(2):205-208, 2009.
- 101) 尾松公平、宇津木久仁子、坂本公彦、川又靖貴、馬屋原健司、杉山裕子、竹島信宏、滝沢 憲: 子宮頸癌、膣癌における骨盤内蔵全摘術の有用性の検討. *日本産科婦人科学会東京地方部会誌*. 58(2):260-263, 2009.
- 102) 尾松公平、岩瀬春子、馬屋原健司、杉山裕子、竹島信宏、滝沢 憲: 多発骨盤リンパ節転移を認めた Ia1 期相当子宮頸部腺扁平上皮癌の一例. *日本婦人科腫瘍学会雑誌*. 27(3):409-413, 2009.
- 103) 澤田武志、名島悠峰、大橋一輝、加藤生真、宮澤真帆、中野美香子、小林武、山下卓也、秋山秀樹、坂巻壽: 初診時より多発性の巨大髓外形質細胞腫を呈した多発性骨髄腫. *臨床血液*. 50(11):1635-1640, 2009.
- 104) Najima Y, Ohashi K, Miyazawa M, Nakano M, Kobayashi T, Yamashita T, Akiyama H, Sakamaki H: Intracranial hemorrhage following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *American Journal of Hematology*. 84(5):298-301, 2009.
- 105) Yamamoto M, Kamihana K, Ohashi K, Yamaguchi T, Tadokoro K, Akiyama H, Sakamaki H: Serial monitoring of T315I BCR-ABL mutation by Invader assay combined with RT-PCR. *Int J Hematol*. 89:482-488, 2009.
- 106) Ando M, Mori J, Ohashi K, Akiyama H, Morito T, Tsuchiya K, Nitta K, Sakamaki H: A comparative assessment of the RIFLE, AKIN and conventional criteria for acute kidney injury after hematopoietic SCT. *Bone Marrow Transplant*. 2010;online
- 107) Sakurai C, Ohashi K, Sakaguchi K, Hishima T, Kamata N, Akiyama H, Sakamaki H: Mikulicz's disease with severe thrombocytopenia following autologous stem cell transplantation in a multiple myeloma patient. *Int J Hematol*. 90:532-536, 2009.
- 108) Kakihana K, Ohashi K, Sakai F, Kamata N, Hosomi Y, Nishiwaki M, Yokoyama R, Kobayashi T, Yamashita T, Akiyama H, Sakamaki H: Leukemic infiltration of the lung following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Int J Hematol* 89:118-122, 2009.
- 109) 鈴木貴夫、山浦玄悟、吉田美貴子: がん薬物療養における制吐剤使用の適正化に関する研究. *日本癌治療学会誌*. 44(2):703,

- 2009.
- 110) 勝俣範之:産婦人科関連 専門医ガイドブック〜サブスペシャリティー選択のために. がん薬物療法専門医 (日本臨床腫瘍学会). 産科と婦人科. 76(11):1436-1447, 2009.
- 111) 本多和典、勝俣範之:各臓器癌に対する薬物療法 婦人科癌 卵巣癌. 日本臨床. 増刊号:695-699, 2009.
- 112) 原野謙一、勝俣範之:がん薬物療法のガイドライン. 婦人科. 腫瘍内科. 5(1):58-65, 2010.
- 2008 年度
- 1) 濃沼信夫、尾形倫明、三澤仁平:胃癌治療の医療経済. 日本臨床. 66 増刊号 5:639-652, 2008.
- 2) Koinuma K, Ogata T, Ito M: Economic burden and associated factors with the feeling of burden of cancer patients. Society for Medical Decision Making Europe Program and Abstracts. 106, 2008.
- 3) 濃沼信夫:がんの医療経済. 日本がん検診・診断学会誌. 16(2):21-22, 2008.
- 4) Koinuma N, Ito M, Ogata T, Monma Y: Economic significance of the postoperative follow-up for colorectal cancer. 67th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association Proceedings. 209-210, 2008.
- 5) 濃沼信夫、菱川良夫、伊藤道哉、尾形倫明、三澤仁平、金子さゆり、門馬靖武:放射線治療における患者自己負担の実態と経済的負担感を増加させる要因について. 日癌治. 43(2):268, 2008.
- 6) 濃沼信夫、尾形倫明:わが国の cost of cancer. 日本医療・病院管理学会誌. 45 Suppl:68, 2008.
- 7) Koinuma N: Future perspectives of aging society. Japan-Finland Joint Seminar on Wellbeing in Aging Society 2007 Report. 2008.
- 8) Hasizume T, Yamada K, Okamoto N, Saito H, Oshita F, Kato Y, Ito H, Nakayama H, Kameda Y, Noda K: Prognostic Significance of Thin-Section CT Scan Findings in Small-Sized Lung Adenocarcinoma. CHEST. 133:441-447, 2008.
- 9) Okamoto N, Miyagi Y, Chiba A, Shiozawa M, Akaike M, Imaizumi A, Ando A, Tochikubo O: Multivariate discrimination functions composed with amino acid profiles (Amino Index) as a novel diagnostic marker for breast and colon cancer. EJC. 6(suppl):47-48, 2008.
- 10) Okamoto N: A history of the cancer registration system in Japan. Int J Clin Oncol. 13:90-96, 2008.
- 11) Sukegawa A, Miyagi E, Asai M, Saji H, Sugiura K, Matsumura T, Kamijo A, Hirayasu Y, Okamoto N, Hirahara F: Anxiety and Prevalence of Psychiatric Disorders among Patients Awaiting for Suspected Ovarian Cancer. J Obstetrics and Gynecology. 34:543-551, 2008.
- 12) Ogino I, Uemura H, Inoue T, Kubota Y, Nomura K, Okamoto N: Reduction of prostate motion by removal of gas in rectum during radiotherapy. Int J Radiation Oncology Biol. Phys. 72:456-466, 2008.
- 13) Pham TM, Fujino Y, Mikami H, Okamoto N, Hoshiyama Y, Tamakoshi A, Matsuda S, Yoshimura T: Reproductive and menstrual factors and thyroid cancer among Japanese women: the Japan Collaborative Cohort Study. J Women's Health. 18(3):331-5, 2009.
- 14) Okamoto N, Miyagi Y, Chiba A, Akaike M, Shiozawa M, Imaizumi A, Yamamoto H, Ando T, Ymakado M, Tochikubo O: Diagnostic modeling with differences in plasma amino acid profiles between non-cachectic colorectal/ breast cancer patients and healthy individuals. Int J Medicine and Medical Sciences. 1:1-8, 2009.
- 15) Watanabe T, Sano M, Takashima S, Kitaya T, Tokuda Y, Yoshimoto M, Kohno N, Nakagami

- K, Iwata H, Shimozuma K, Sonoo H, Tsuda H, Sakamoto G, Ohashi Y: Oral uracil-tegafur (UFT) compared with classical cyclophosphamide, methotrexate, 5-Fluorouracil (CMF) as postoperative chemotherapy in patients with node-negative, high-risk breast cancer. Results from National Surgical Adjuvant Study for Breast Cancer (N-SAS-BC) 01 trial. *J Clin Oncol*. 27(9):1368-1374, 2009.
- 16) Kuroi K, Shimozuma K, Ohashi Y, Takeuchi A, Aranishi T, Morita S, Ohsumi S, Watanabe T, Bain S, Hausheer FH: A questionnaire survey of physicians' perspectives regarding the assessment of chemotherapy-induced peripheral neuropathy in patients with breast cancer. *Jpn J Clin Oncol*. 38(11):748-754, 2008.
- 17) Shiroya T, Fukuda T, Shimozuma K, Ohashi Y, Tsutani K: The model-based cost-effectiveness analysis of 1-year adjuvant trastuzumab treatment: based on 2-year follow-up HERA trial data. *Breast Cancer Res Treat*. 109(3):559-566, 2008.
- 18) 下妻晃二郎: がん薬物療法学 基礎・臨床研究のアップデート VII 抗悪性腫瘍薬の臨床試験-行政との関わり 11. QOL 日本臨床. 67(1):454-458, 2009.
- 19) 下妻晃二郎, 平成人: 肝胆膵疾患と QOL 健康関連 QOL の尺度 癌特異的尺度(QOL-ACD, EORTC QLQ, FACT) 肝胆膵. 57(6):1129-1135, 2008.
- 20) 下妻晃二郎: V. QOL 3. The Functional Assessment of Cancer Therapy scale (FACT). 臨床と研究に役立つ緩和ケアのアセスメント・ツール. 緩和ケア. 18(Suppl):63-65, 2008.
- 21) 野口海, 下妻晃二郎, 松島英介: 臨床と研究に役立つ緩和ケアのアセスメント・ツール IV. 心理・社会・霊的ケア 5. スピリチュアルペインの評価 (FACIT-Sp 日本語版). 緩和ケア. 18(Suppl):56-57, 2008.
- 22) 下妻晃二郎: 緩和医療における精神症状への対策. 緩和医療における QOL の評価と対応. 緩和医療学. 10(1):31-36, 2008.
- 23) 江崎泰斗, 政幸一郎, 有山寛: がん診療における一般内科の役割. *medicina*45. 1430-1432, 2008.
- 24) 江崎泰斗, 政幸一郎, 有山寛: 進行・再発大腸癌に対する最新化学療法. *大腸癌 Frontier*. 94:191-195, 2008.
- 25) 江崎泰斗: 高齢者の乳癌. 薬物療法. 老年腫瘍学. 文光堂. 196-202, 2008.
- 26) 金子昌弘: 肺癌低線量 CT 検診. *Medical Practice*. 25(1):49-51, 2008.
- 27) 金子昌弘: がんを見つけないのが理想のがん検診. *日本がん検診・診断学会誌*. 15(2):87, 2008.
- 28) 金子昌弘: 症例報告の書き方について. *気管支学*. 30(3):119-121, 2008.
- 29) 金子昌弘, 土田敬明: 診断機器の現状と将来の展望 気道領域. *日本気管食道科学会報*. 59(5):439-444, 2008.
- 30) Suzuki W, Ogura S, Izumida N: Burden of Family Care-Givers and the Rationing in the Long Term Care Insurance Benefits of Japan. *Singapore Economic Review*. 53(1):121-144, 2008.
- 31) 鈴木 亘: 医療保険制度への積立方式導入と不確実性を考慮した評価. 貝塚 啓明+財務省財務総合政策研究所. 人口減少社会の社会保障制度改革の研究. 中央経済社. 269-398, 2008.
- 32) 鈴木 亘: だまされないための年金・医療・介護入門. 東洋経済新報社. 1-296, 2009.
- 33) Sameshima S, Tomozawa S, Horikoshi H, Motegi K, Hirayama I, Koketsu S, Okada T, Kojima M, Kon Y, Sawada T: F-fluorouracil-related gene expression in hepatic artery infusion-treated patients with hepatic metastases from colorectal carcinomas. *Anticancer Research*. 28:1477-1482, 2008.

- 34) 青木大輔 : 知っておきたい子宮頸部細胞診の報告様式 ―ベセスダシステム 2001―. 日本産科婦人科学会雑誌. 60:N-178-N-184, 2008.
- 35) 青木大輔, 齊藤英子, 片岡史夫 : 子宮体がん検診のエビデンスとこれからの考え方. 産婦人科の実際. 57:1393-1398, 2008.
- 36) 山本順啓, 顛川 晋 : 限局性前立腺癌のgradingとstaging上の問題点. 泌尿器外科. 21(1):3-5, 2008.
- 37) 佐々木 裕, 顛川 晋 : 外来化学療法の実際. 泌尿器科癌. 臨床と研究. 85(3):57-59, 2008.
- 38) 佐々木 裕, 顛川 晋 : 特集 前立腺癌治療後のPSA再発をどうとらえるか. 前立腺全摘術の自然史. Urology View. 6(2):10-13, 2008.
- 39) 佐々木 裕, 顛川 晋 : 特集 前立腺癌の新展開. 限局癌治療の新展開 腹腔鏡下神経温存根治的前立腺摘除術. Pharma Medica. 26(8):27-30, 2008.
- 40) 佐々木 裕, 顛川 晋 : 特集 EAU/AUA/ASCOにおける泌尿器腫瘍のトピックス・進歩 2008 限局性前立腺癌の治療. 泌尿器外科. 21(10):1351-1355, 2008.
- 41) 車 英俊, 顛川 晋, 馬場志郎, 前田忠計 : 前立腺癌を認識する新規腫瘍マーカータンパク質. 化学工業. 59(12):51-56, 2008.
- 42) Sakai Y, Tsuyuguchi T, Yukisawa S, Tsuchiya S, Sugiyama H, Miyakawa K, Fukuda Y, Ebara M, Nonaka H, Ikehira H, Obata T, Yokosuka O, Miyazaki M : Magnetic resonance cholangiopancreatography: potential usefulness of dehydrocholic acid (DHCA) administration in the evaluation of biliary disease. Hepato-gastroenterology. 55(82-83):323-328, 2008.
- 43) Maruyama H, Yoshikawa M, Yokosuka O : Contrast-enhanced ultrasonography: a recent application for the diagnosis and treatment of hepatocellular carcinoma. JNMA J Nepal Med Assoc. 47(171):156-166, 2008.
- 2007 年度
- 1) 濃沼信夫 : がん医療にみる健康と経済. Geriat. Med. 45(5):577-581, 2007.
- 2) 濃沼信夫 : 前立腺癌治療の医療経済. 日本泌尿器科学会雑誌. 98(2):150, 2007.
- 3) 濃沼信夫 : がん医療のコスト・パフォーマンス. 月刊基金. 48(6):3-5, 2007.
- 4) Koinuma N, Ito M : Economic evaluation of anti-smoking measures in cancer control strategy using a system model. Online Abstract, International Health Economics Association 6th World Congress. http://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=992379. 2007.
- 5) Koinuma N, Ito M and Ogata T : The estimated national cost of cancer in Japan. Proceedings, 66th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. 270-271, 2007.
- 6) 濃沼信夫, 伊藤道哉, 尾形倫明, 三澤仁平, 広中秀一, 岡本直幸 : 実態調査にみるがん化学療法における患者自己負担の課題. 日本癌治療学会. 42(2):270, 2007.
- 7) 濃沼信夫 : 安心と安全の地域医療を担保する医療制度の再構築. 公衆衛生. 71(11):908-913, 2007.
- 8) Koinuma N, Ito M, Monma Y : Place of death of cancer patients and access to home care services, Patient survey using FACIT-Sp and telephone interviewing to the physician. Quality of Life Research Supplement. A80-81, 2007.
- 9) 濃沼信夫, 伊藤道哉, 門馬靖武 : 大腸がん術後フォローアップの経済効果に関する研究. 病院管理. 44supp:107, 2007.
- 10) Ogawa M, Okamoto N, et al : Pradoxical discrepancy between the serum level and the placental intensity of PP5/TFPI-2 in preeclampsia and/or intrauterine growth restriction: possible interaction and correlation with glypican-3 hold the key. PLACENTA. 28:224-232, 2007.

- 11) Hirabayashi Y, Okamoto N, et al: Factors relating to terminally ill patients' willingness to continue living at home during the early care after discharge from clinical cancer centers in Japan. Palliative & Supportive Care. 5(1):19-30, 2007.
- 12) 大重賢治、岡本直幸、他：米国における保険者のがん検診サービスの枠組みに関する調査。公衆衛生。71(2):102-107, 2007.
- 13) 川上ちひろ、岡本直幸、他：がん検診受診行動に関する市民意識調査。厚生の指標。54(5):16-23, 2007.
- 14) Saito S, Shimozuma K, Ohashi Y, Fukuda T, Fukui N, Mouri M, Kuroi K: Basic attitude to use of generic anti-cancer drugs for breast cancer treatment in Japan. Value Health. 10(6):A340, 2007.
- 15) Hongo M, Kinoshita Y, Shimozuma K, Kumagai Y, Sawada M, Nii M: Psychometric validation of the Japanese translation of the Quality of Life Reflux and Dyspepsia questionnaire in patients with heartburn. J Gastroenterol. 42(10):807-815, 2007.
- 16) Kurita M, Shimozuma K, Morita S, Fujiki Y, Ishizawa K, Eguchi H, Saito Y, Ushiorozawa N, Wasada I, Ohashi Y, Eguchi K: Clinical validity of the Japanese version of the Functional Assessment of Cancer Therapy-Anemia scale. Support Care Cancer. 15(1):1-6, 2007.
- 17) Shimozuma K, Imai H, Kuroi K, Ohsumi S, Ono M: Recent topics of health outcomes research in oncology. Breast Cancer. 14(1):60-65, 2007.
- 18) Ohsumi S, Shimozuma K, Kuroi K, Ono M, Imai H: Quality of life of breast cancer patients and types of surgery for breast cancer - Current status and unresolved issues. Breast Cancer. 14(1):66-73, 2007.
- 19) Kuroi K, Shimozuma K, Ohsumi S, Imai H, Ono M: Current status of health outcome assessment of medical treatment in breast cancer. Breast Cancer. 14(1):74-80, 2007.
- 20) Imai H, Kuroi K, Ohsumi S, Ono M, Shimozuma K: Economic evaluation of the prevention and treatment of breast cancer-present status and open issues. Breast Cancer. 14(1):81-87, 2007.
- 21) Ono M, Imai H, Kuroi K, Ohsumi S, Shimozuma K: Quality of Japanese health care evaluated as hospital functions. Breast Cancer. 14(1):88-91, 2007.
- 22) 姜哲浩、湯沢美都子、栃木香寿美、山口拓洋、下妻晃二郎、福原俊一、松本容子：加齢黄斑変性患者に対する光線力学療法 1 年後の quality of life 評価。日眼会誌。111(4):315-321, 2007.
- 23) 下妻晃二郎：外来診療でできる患者満足度を向上させる工夫とは？ がん告知－患者さんとのコミュニケーションスキルを上げる 20 か条。第 7 回 Junior 11. 医事新報社。467:29-32, 2007.
- 24) 下妻晃二郎：教育や心理社会的介入はがん患者の QOL を向上できるか？ がん告知－患者さんとのコミュニケーションスキルを上げる 20 か条。第 6 回 Junior 10. 医事新報社。466:35-38, 2007.
- 25) 下妻晃二郎：がん患者の QOL や主観的症状を的確に把握するには？ がん告知－患者さんとのコミュニケーションスキルを上げる 20 か条。第 5 回 Junior 10. 医事新報社。465:31-34, 2007.
- 26) 下妻晃二郎：乳がんと QOL. 看護に活かす QOL の視点－疾患別 QOL 向上に向けた実践。臨床看護。33(12):1742-1746, 2007.
- 27) 下妻晃二郎、齋藤信也：緩和ケアにおけるクリニカルパス－在宅緩和医療のパス。緩和医療学。9(2):131-137, 2007.
- 28) 下妻晃二郎：がん緩和医療における QOL 評価。日本臨床。65(1):157-163, 2007.
- 29) 齋藤信也、下妻晃二郎：日本と世界の乳癌罹患率・死亡率の動向。これからの乳癌検診 2008-2009 第 5 章 疫学・予防。金原出版。

- 108-114, 2008.
- 30) 下妻晃二郎: QOL をアウトカムにしたがん領域の臨床試験. 臨床研究の新しい潮流—わが国発の臨床研究推進にむけて. 週刊 医学のあゆみ. 別冊:59-64, 2007.
- 31) 下妻晃二郎: 第一章 基本的診察 13) QOL 評価. 診察・検査—みてわかる臨床力アップシリーズ. 名郷直樹編. 羊土社. 86-89, 2007.
- 32) Yamazaki K, Boku N, Shibamoto K, Yasui H, Fukutomi A, Yoshino T, Hironaka S, Onozawa Y, Otake Y, Hasuike N, Matsubayashi H, Inui T, Yamaguchi Y, Ono H: The role of the outpatient clinic in chemotherapy for patients with unresectable or recurrent gastric cancer. *Jpn J Clin Oncol.* 37: 96-101, 2007.
- 33) Yoshino T, Boku N, Onozawa Y, Hironaka S, Fukutomi A, Yamaguchi Y, Hasuike N, Yamazaki K, Machida N, Ono H: Efficacy and Safety of an Irinotecan plus Bolus 5-Fluorouracil and L-Leucovorin Regimen for Metastatic Colorectal Cancer in Japanese Patients: Experience in a Single Institution in Japan. *Jpn J Clin Oncol.* 37:686-691, 2007.
- 34) Zenda S, Hironaka S, Boku N, Yamazaki K, Yasui H, Fukutomi A, Yoshino T, Onozawa Y, Nishimura T: Impact of Hemoglobin Level on Survival in Definitive Chemoradiotherapy for T4/M1 Lymph Node Esophageal Cancer. *Dis Esophagus.* 21(3):195-200, 2008.
- 35) Yamazaki K, Hironaka S, Boku N, Fukutomi A, Yoshino T, Onozawa Y, Hasuike N, Inui T, Yamaguchi Y, Ono H: A retrospective study of second-line chemotherapy for unresectable or recurrent squamous cell carcinoma of the esophagus refractory to chemotherapy with 5-fluorouracil plus platinum. *Int J of Clin Oncol.* 13(2):150-155, 2008.
- 36) 村上昌雄、菱川良夫: 粒子線治療. 乳がんに対する適応. *Current Therapy.* 25:690-694, 2007.
- 37) 村上昌雄、菱川良夫: 粒子線治療. *Radiology Frontier.* 10:183-186, 2007.
- 38) 菱川良夫、村上昌雄: 粒子線治療. *医薬ジャーナル.* 43:2242-2246, 2007.
- 39) 斉藤公明、菱川良夫、他: 放射線治療の高度化のための超並列シミュレーションシステム. *情報処理.* 48(10):1081-1088, 2007.
- 40) 村上昌雄、菱川良夫: 粒子線治療. エビデンス放射線治療. 渋谷均 他編. 中外医学社. 50-52, 2007.
- 41) 村上昌雄、菱川良夫: 前立腺癌、IMRT, 粒子線治療. エビデンス放射線治療. 渋谷均 他編. 中外医学社. 375-377, 2007.
- 42) 菱川良夫: 脳外科領域の粒子線治療. 脳腫瘍の外科. 黒岩敏彦編. メディカ出版. 66-69, 2007.
- 43) Mayahara H, Hishikawa Y, et al: Acute morbidity of proton therapy for prostate cancer: the Hyogo Ion Beam Medical Center experience. *Int J Radiat Oncol Biol Phys.* 69(2):434-43, 2007.
- 44) 金子昌弘: 気管支鏡の歴史. 呼吸と循環. 55(2):137-144, 2007.
- 45) 金子昌弘: 肺がん低線量CT検診. *Medical Practice.* 25(1):49-51, 2008.
- 46) Saeki, Mizushima, Sasaki, et al: GASDERMIN, suppressed frequently in gastric cancer, is a target of LM01 in TGF-beta-dependent apoptotic signaling. *Oncogene.* 26:6488-98, 2007.
- 47) Sameshima S, Horikoshi H, Motegi K, Tomozawa S, Hirayama I, Saito T, Sawada T: Outcome of hepatic artery infusion therapy for hepatic metastases from colorectal carcinoma after radiological placement of infusion catheters *EJSO (European Journal of Surgical Oncology).* 33:741-745, 2007.
- 48) 澤田俊夫: 特集がんの緊急病態と症状マネジメント. 看護技術 53 臨時増刊号 5. メヂカ